

助成活動実績報告書

企画名	まだまだ調べる 真庭のハンザキ
団体名	真庭ハンザキ調査団

①活動の目的について

真庭市の一部は、オオサンショウウオの生息地として国の天然記念物の指定を受けています。その生息実態を把握すべく詳細調査は、今から15年前に遡り、故川口四郎岡山大学名誉教授及び梶田博司川崎医大教授らの調査成果があるのみで、全国一の生息指定地であるにも関わらず、行政をはじめ、地域住民でさえも近年の実態を知る者はほとんど存在しません。本種は、天然記念物としての文化財的価値や生物多様性の観点からも県内第一級の生物であることは疑う余地もなく、そのことを踏まえ、私達は、数年前から真庭市北部の主要河川において、このオオサンショウウオの生息実態調査と聞き取り調査を継続し実施しています。生息実態の解明することを目的に地元関係者とともに、調査活動を進めています。

②内容について（学習会、集会などは開催日や内容、参加者数など。設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載）

今年は、局所的な集中豪雨や台風の襲来により、河川が増水し調査に適した条件が少なかったですが、以下の日程で調査を実施しました。確認したオオサンショウウオは、体長・体重の測定、個体識別（マイクロチップ挿入）、写真撮影を行い放逐しました。

調査実施日：平成25年5月5日 山乗川(1)、登畝川(0)
 平成25年5月31日 下和川(0)、植杉川(5)
 平成25年7月13日 下和川(0)
 平成25年8月17日 下和川(2)、津黒川(5)

注1)カッコ内の数字は確認個体数を示す。

注2)上記の調査結果については、結果概要を真庭市教育委員会に報告した。

③この活動によって達成された成果

- ・ 生息状況調査では、増水等の影響で調査条件が悪かったため、目標としていた地域の調査が十分にできませんでした。しかし、これまでの調査成果を合わせると、旧中和村の各河川においては、およそその生息実態を把握することができました。
- ・ 「津黒いきものふれあいの里・ささゆり館」や「湯原地域の地元活動グループ」の方からオオサンショウウオの観察会の依頼がありました。生憎、予定日が悪天候で開催中止となりましたが、地元からも私達の活動が少しずつ認知されつつあります。
- ・ 鏡野町内の旭川水系でオオサンショウウオの調査を開始された旭川源流大学さんとの交流ができ、今後は合同調査も期待できそうです。
- ・ 今年度、真庭市が「生物多様性地域連携保全活動計画」を策定し、その中に私達の調査活動が取り入れられたため、今後は、地域住民や有識者の方々との連携や交流が益々広がるものと考えられます。

④今後の計画・展望について

- ・ 生息地域には未調査の河川が多数あり、引き続き、生息状況調査を継続していきます。その中で、「地域連携」というキーワードを掲げ、活動の輪が徐々に広がるとともに、生物多様性の保全につながる調査活動としたいと考えています。

